

— 広 告 —



山上果鈴 (やまがみかりん)  
金沢工業大学  
情報フロンティア学部  
経営情報学科四年  
石川県 北陸学院高等学校出身

# 自分の「殻」にサヨナラ。 コミュニケーション磨き舞台は世界。

最新版の入学案内を手にとった。冒頭、目に飛び込んだのは、見開きの誌面いっぱいの写真と「本気で殻をやぶる」の大きなキャッチ。これが、受験生に最も伝えたいKITのメッセージだと理解した。ビジネスアルはライブラリセンタールでパソコンを開く学生の自然な表情で、それが山上さんであった。

「私にとつての『殻』は、間違いなく世界規模の研究開発機関・SR Iインターナショナルが持つイノベーション創出のノウハウを学ぶワークショップで、殻はついにやぶれた。」

「文法が多少間違つていても伝えたい気持ちがあれば、相手は真剣に聞いてくれることを初めて知りました。それから、怖がらずに言い出せるようになり、自然体でコミュニケーションの取れる自分になりました」

を恐れる気持ちでした。英語を使つてコミュニケーションを取ることが好きなのに、国際交流プログラムでも間違えないことばかり考え、うまくいきませんでした」

一年次から英語に関連する課外プロジェクトに積極的に参加した。そして、何度も自身の殻に阻まれ、忸怩たる思いを味わった。だが、リベンジの気持ちで三年次も参加し

ワークショップではチームを組む多国籍の学生と、オンラインでアイデアの深掘りや発表資料づくりを進めた。もし、彼女が帰国子女でバイリンガルだったら、こんな蹉跌とは無縁だったろう。逆に、殻があつたからこそ、それをブレイクスルーできた成長の喜びと己への自信をかみしめることができた。

業種で深刻な人手不足となつてい  
る日本で、生産性を上げるのに不  
可欠なテーマだ。  
就職でもこの経験値を活かした  
いと、第一志望に選んだ世界有数  
のファスナーメーカー・YKKか  
ら内定を得た。同社は世界七十の  
国と地域で事業を展開し、約四十  
五千人を数える社員の約六割が海  
外で働く。「生産や勤怠管理の効率  
化をシステム面からサポートした  
いですね」。笑みがこぼれた先には、  
海外勤務の夢が描かれていた。  
KITで磨いた山上さんのコミ  
ュニケーション力が、真価を発揮  
する日もそう遠くないに違いない。  
「一番小さなイノベーションは自  
分の殻をやぶることです」。入学案  
内のキャッチに続くボディコピー  
の一節が、リアリティーを帯び  
て迫ってきた。

**金沢工業大学**  
石川県野々市市扇が丘七二一  
電話番号(〇七六)二四八二一〇〇

KIT  
キャンパス  
レポート 299  
文・杉村裕之